

【相談支援従事者初任者研修（実習を含む）・相談支援従事者現任研修（実習を含む）】の構造を理解し、都道府県研修の準備へ】

令和4年7月1日

- ① 相談支援従事者初任者・現任研修の構造と流れを再確認する。
- ② 講義から演習へ（演習統括と演習講師の役割を理解し自らの都道府県研修を振り返る。）

**長野県 上小圏域基幹相談支援センター
所長 橋詰 正**

本日のスケジュール

10:10～10:25	コース全体	講義 【基本的スキル獲得に向けた教育方法の再確認】 ストレングスとインフォーマル資源の活用・計画作成・モニタリング等基本的理解】
10:25～10:50	ブレイクアウト	演習 【初任者研修の基本的な教育方法の再チェック】
10:50～11:00	コース全体	演習 【全体ルーム振り返り】
11:00～11:10	コース全体	休憩
11:10～11:25	コース全体	講義 【サービス担当者会議とモニタリング演習の展開】
11:25～11:45	ブレイクアウト	演習 【都道府県でのモデル事例による会議等の演習の教育方法企画実践の共有】
11:45～11:55	コース全体	演習 【全体ルームの振り返り】
11:55～12:00	コース全体	講義 【午前のまとめと午後のイメージ作り】
13:00～13:15	コース全体	講義 【初任者研修及び現任研修における実習の進め方と流れ】 ※ICT（対面による面接必須の再確認）
13:15～13:45	ブレイクアウト	演習 【初任者研修の実習の進め方】～演習構造との連動した組立の検討～
13:45～ 13:55	コース全体	演習 【初任者研修の全体共有】
13:55～ 14:25	ブレイクアウト	演習 【現任研修の実習の進め方】～演習構造との連動した組立の検討～
14:25～ 14:35	コース全体	演習 【現任研修の全体共有】
14:35～ 14:45	コース全体	休憩
14:45～ 15:00	コース全体	まとめ 【演習講師のコメント ①初任者研修の実習 ②現任研修の実習 ③実習体制整備

本科目の取り扱う内容を説明しつつ、初任者研修で獲得すべき以下の8つの**基本的視点**を提示する。

1 相談支援概論

① 相談支援の目的 (**Aim**) ② 相談支援の基本的視点 (**Basic concepts**) ③ 相談援助技術 (**Competency**)

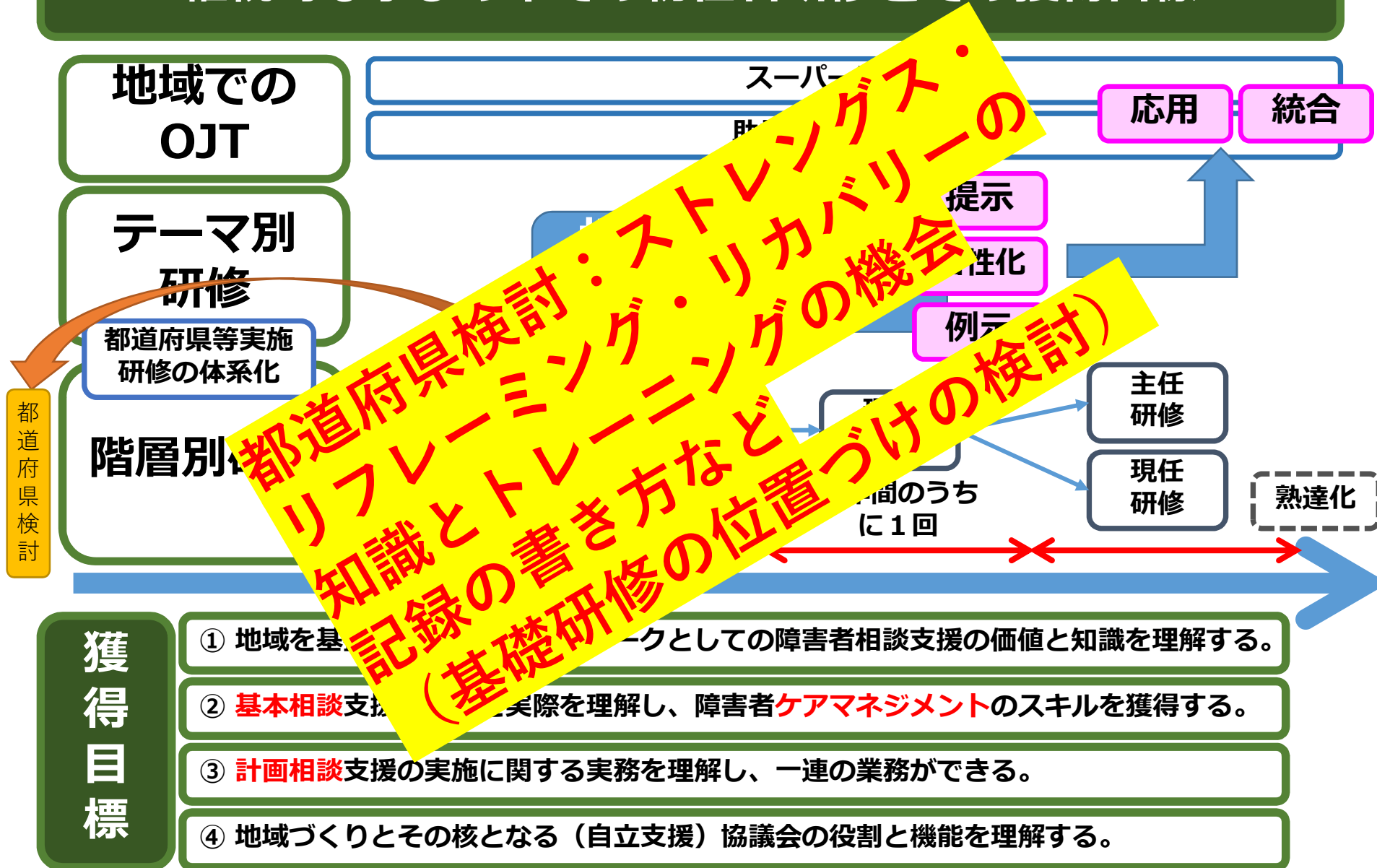
- A) 相談支援をマクロな歴史やミクロな事例といった文脈の中に置くことで、支援の目的が見える（複眼的になるよう多様な歴史・事例を並べる必要あり）
- B) 迷ったときや困難な時、大切な概念が実践を導く
- C) 相談支援専門員が身につけるべき技能

2 基本的視点 (**Basic concepts**)

① 個別性の重視、② 生活者視点、QOLの重視、③ 本人主体、本人中心、④ 自己決定（意思決定）への支援、セルフケアマネジメントの支援、⑤ エンパワメント、リカバリーの視点、ストレングスへの着目、⑥ 権利擁護、⑦ 多職種連携・チームアプローチ、⑧ 地域づくり（コミュニティワーク）、スティグマへのアプローチ

※基本的視点⑦⑧は他科目で詳細に取り扱うため、本科目では提示のみ。

継続的な学びの中での初任者研修とその獲得目標



カリキュラム見直しのポイント（1）

(1) 告示・標準カリキュラムの見直し（獲得目標、学習内容、時間数）

(2) 教育方法の見直し 厚生労働科学研究・障害者総合福祉推進事業の成果

- ・主体的かつ参加型の学習方法への転換（学習観の転換）
- ・演習や実習のさらなる重視
- ・オープンエンドアプローチの視点の導入 cf. 実践場面との整合性
- ・研修全体の連動性の重視
- ・継続的な学びの必要性の強調
 - ・研修における実習の導入（初任）や推奨（現任）
 - ・実地教育（OJT）との連動の導入
 - ・スーパービジョンや合議の場の体験等を導入（初任・現任）
 - ・自己評価等の導入を推奨（初任・現任）

(3) 合理的配慮等による障害当事者の受講への配慮

→ 都道府県における企画立案方法の見直し

- ・検討体制、研修体系、教材開発、講師選定・確保、地域との連動など

都道府県での企画立案、検討に資するもの

① 告示・標準カリキュラム

研修の獲得目標、科目構成、取り扱う項目を示したもの。

H28-29厚労科研にて開発、質の向上検討会で再検討

② 相談支援従事者研修ガイドライン（仮称）

今後、改訂したものを都道府県に発出予定

- 第1章 はじめに（本ガイドラインの目的・活用法）
- 第2章 相談支援専門員とは（目的・業務・コンピテンシー）
- 第3章 人材育成体系の必要性（研修および実地教育の必要性）
- 第4章 研修を実施するための体制整備
- 第5章 科目別ガイドライン（初任・現任）

研修および人材育成実施の方法、留意点をガイドライン化したもの

③ 受講生向け研修教材

講義・演習配布資料(PowerPoint)
演習事例、ワークシート
実習課題

④ 講師向け資料

ガイドライン以外
演習進行表
演習、実習記載例
演習実施用PowerPoint
講義サンプルDVD

<http://www.ssa-b.com/h30guideline.html>

H30 障害者総合福祉推進事業により開発

【その他】

過去の相談支援従事者指導者養成研修資料

国リハ学院Webサイトに掲載
※初任・現任の講義については、
令和元年度研修に掲載

過去の主任相談支援専門員研修資料

戸山サンライズホームページに掲載

相談支援従事者研修の
構造を再確認しましょう。

相談支援従事者初任者研修 カリキュラム構造

研修受講ガイダンス(標準カリキュラム上は任意)

講義	1日目	概論	相談支援(障害児者支援)の目的(1.5時間)
			相談支援の基本的視点(障害児者支援の基本的視点)(2.5時間)
			相談支援に必要な技術(1時間)
	2日目	技法の実際	相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス(1.5時間)
			相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点(1.5時間)
		法制度	障害者総合支援法等の理念・現状とサービス提供プロセス及びその他関連する法律等に関する理解(1.5時間)
障害者総合支援法及び児童福祉法における相談支援(サービス提供)の基本(1.5時間)			
モデル演習	3日目	講義演習	相談支援の実際(ケアマネジメント手法を用いた相談支援プロセスの具体的理解)(12時間)
	4日目		実習ガイダンス(1時間)
実践	5日目	実習1	相談支援(ケアマネジメント)の基礎技術に関する実習1 地域資源に関する情報収集
		講義演習	実践研究1(6時間)
	6日目	実習2	相談支援(ケアマネジメント)の基礎技術に関する実習実習2
		講義演習	実践研究2(4時間)
			実践研究3(6時間)
	7日目	研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り(2.5時間)	

事前課題 地域資源調査

演習は、演習統括と演習講師により展開する
演習2日：受講生が、地域に戻り、集めた情報からアセスメントし、ニーズを導きだす。(3日目)

サービス等利用計画(案)の作成ができ(4日目)、サービスの利用調整やサービス担当者会議を開催し、モニタリング・終結の一連の流れが理解され、実践できるよう受講者へのフォローにより、取りこぼしのない研修とする。



研修準備

3日目 相談受付～ファーストインターク・契約 アセスメント(事前評価)及びニーズ整理

4日目 目標設定・サービス等利用計画作成・評価・終結 ※実習ガイダンス

実習1 実践：初期面接からアセスメント・ニーズ整理票を持参し基幹(主任)等からSV

実習1 実践：地域資源調査

受講生の実践事例のアセスメント結果の検討(スーパービジョン体験：GSV)

実習2 実践：サービス等利用計画(案)を持参し基幹(主任)等からSVを受ける修正

5日目 ケースレビュー サービス等利用計画案の検討(スーパービジョン体験：GSV)

6日目 再アセスメント 修正計画作成 インフォーマル社会資源の活用

研修全体の振り返り(ケアマネジメント定着の推進)

3日目（モデル事例による演習）

目標【受付及び初期相談並びに契約アセスメント（事前評価）及びニーズ把握】

【獲得目標】

- 基本相談支援の実際について修得
- 受付及び初期相談（インテーク）、契約の各場面で求められる実践的な技術を修得
- 利用者の**主訴を明確にし**、本人・家族等からの**情報収集とその分析**を通して相談支援専門員としての**専門的な判断の根拠を説明できる技術**を修得する。
- また、アセスメントにおいて収集した情報から、**専門職としてニーズを導くための技術**を修得する

3日目（モデル事例による演習）

目標【受付及び初期相談並びに契約アセスメント（事前評価）及びニーズ把握】

【講義】

- ・利用者及びその家族との信頼関係の構築の重要性について

【演習】

- ・契約に関する制度上の位置付けや契約の重要性について
- ・受付及び初期面接の場面における信頼関係を築くための技術（受容、共感、傾聴）について
- ・その際、真意の探求（知的障害児者や自閉スペクトラム症）
- ・主訴を始めとした本質的な課題を把握し、収集とそれをもとにしたアセスメント
- ・演習によりアセスメントの理解と方法・技術を修得（例：ジェノグラム）
- ・利用者が持つ内面的な課題を視してアセスメントを行うことの重要性を理解（ストレングス）
- ・生物・心理・社会モデルを活用し、収集した情報を的確に分析し生活全体を捉える視点と、生活課題を導き出す方法・技術を修得

昨日の研修

4日目（モデル事例による演習）

目標【目標の設定と計画作成】

【獲得目標】

- 基本相談支援を基盤とした計画相談支援の実際について
修得
- 本人の意向とニーズを踏まえた目標設定と目標を実現するためのサービス等利用計画等の作成技術を修得
- より適切で質の高いサービスを提供するためにはサービス等利用計画と個別支援計画等との連動を理解
- 他の多様な職種とのアセスメント結果の共有やサービス等利用計画の原案に対する専門的見知からの意見収集の意義を理解し、サービス担当者等による会議の開催に係る具体的な方法を修得

4日目（モデル事例による演習）

演習内容

【講義】

- 利用者及び家族の生活に対する意向及び総合的な援助の方針を記載するに当たっての留意点
- アセスメントから導いたニーズを解決するための視点と達成するための目標の関係
- 計画の策定の視点と手順は、本人のエンパワメントを意識しつつ、①本人の力（ストレングス）の発揮と活用、②一般社会・生活資源の活用、③諸制度（医療・年金・就労・教育・生活保護等）の活用、④障害福祉サービスの活用、⑤満たされないニーズの確認とそれを満たす社会資源開発・地域づくり等、⑥制度・政策改革等、を基本とする意味を理解

【演習】

- インフォーマルサービスも含めた社会資源の種類及び内容を理解するとともに、インフォーマルサービスの活用も含めた支援内容の作成一連の支援計画作成の手法・技術を修得
- サービス担当者会議を開催の事前の準備や開催当日の準備などを理解し、会議の進行の手法等を習得
- 模擬サービス担当者会議を行い会議進行の手法・技術を修得
- サービス担当者会議は、利用者及び家族並びにサービス提供事業者も含め、利用者を支援していくための方向性を定める場であることから、相談支援専門員によるアセスメントの結果を共有することの重要性を理解する。サービス等利用計画と個別支援計画等との内容の整合性を確認することの重要性を理解する。

4日目（モデル事例による演習）

目標【評価及び終結】

【獲得目標】

- 基本相談支援を基盤とした計画相談支援の実際について修得
- ケアマネジメントプロセスにおけるモニタリングの意義・目的や多職種との連携によるサービス実施の効果を検証することの重要性を理解
- また、検証の結果、支援が終結されることの意義と留意すべきことについて理解

4 日目（モデル事例による演習）

演習内容

【講義・演習】

- 利用者及びその家族、サービス担当者等との継続的な連絡や、**居宅を訪問し利用者と面接することの意味を理解する**ための演習
- 演習によりモニタリングにおける視点や手法、状況の変化への対応の技術を修得
- モニタリング結果の記録作成の意味と、記録に当たっての留意点を理解するための講義を行い、演習により手法を修得する。
- 評価表等を活用し目標に対する各サービスの達成度（効果）の検証の必要性を理解し評価手法を修得
- 相談支援従事者の共依存を避け、自立支援を進める上で、相談支援の終結とセルフケアマネジメントへの移行の重要性について理解し、その作成支援についての講義を行う。
- サービス等利用計画等の再作成を行う方法について講義により理解し、演習により技術を修得

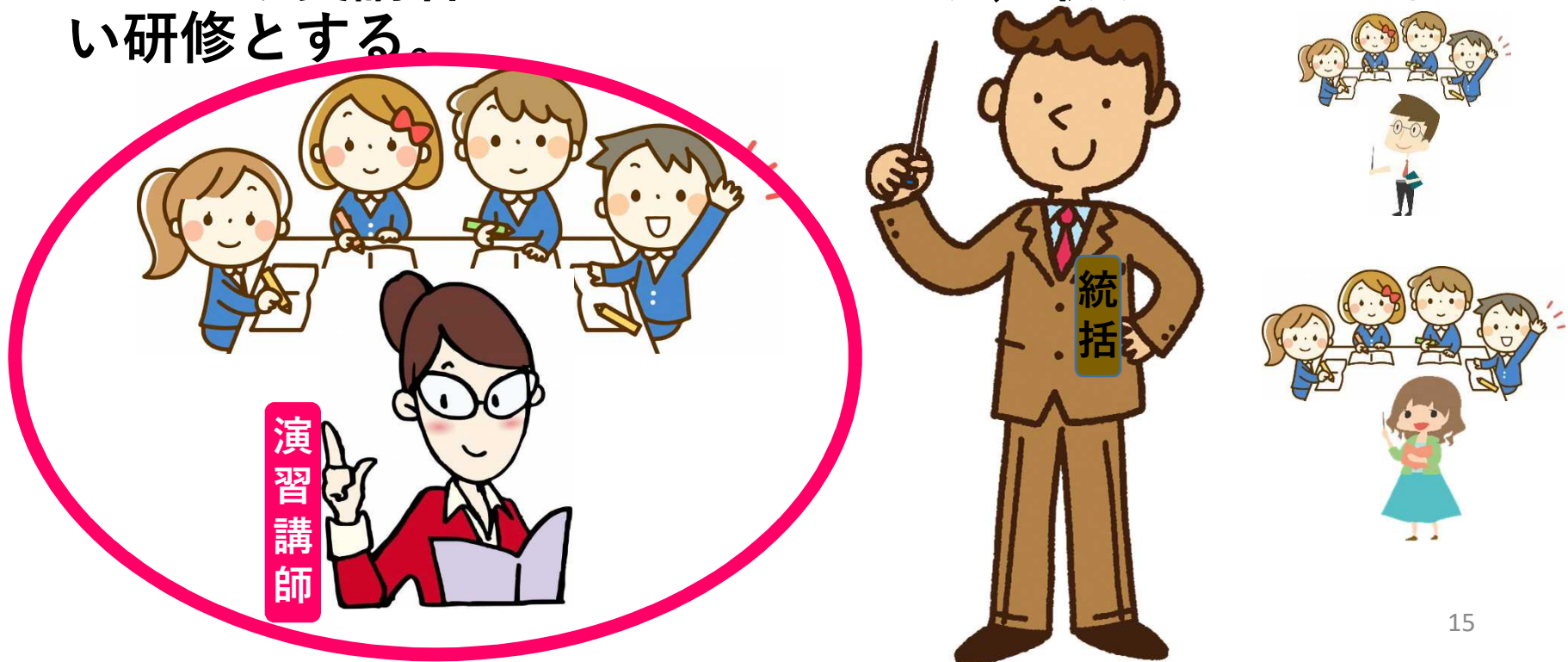
実習ガイダンス
(最後に実践研究の現地教育の説明)

【モデル事例を使った、2日間演習のゴール設定】

演習は、演習統括と演習講師により展開する

演習2日：受講生が、地域に戻り、集めた情報からアセスメントし、ニーズを導きだす。（3日目）

サービス等利用計画（案）の作成ができ（4日目）、サービスの利用調整やサービス担当者会議を開催し、モニタリング・終結の一連の流れが理解され、実践できるように受講者へのフォローにより、取りこぼしさない研修とする。



実習（実践事例）

1回目

実習1 3日目で学んだ知識を実践

【講義】

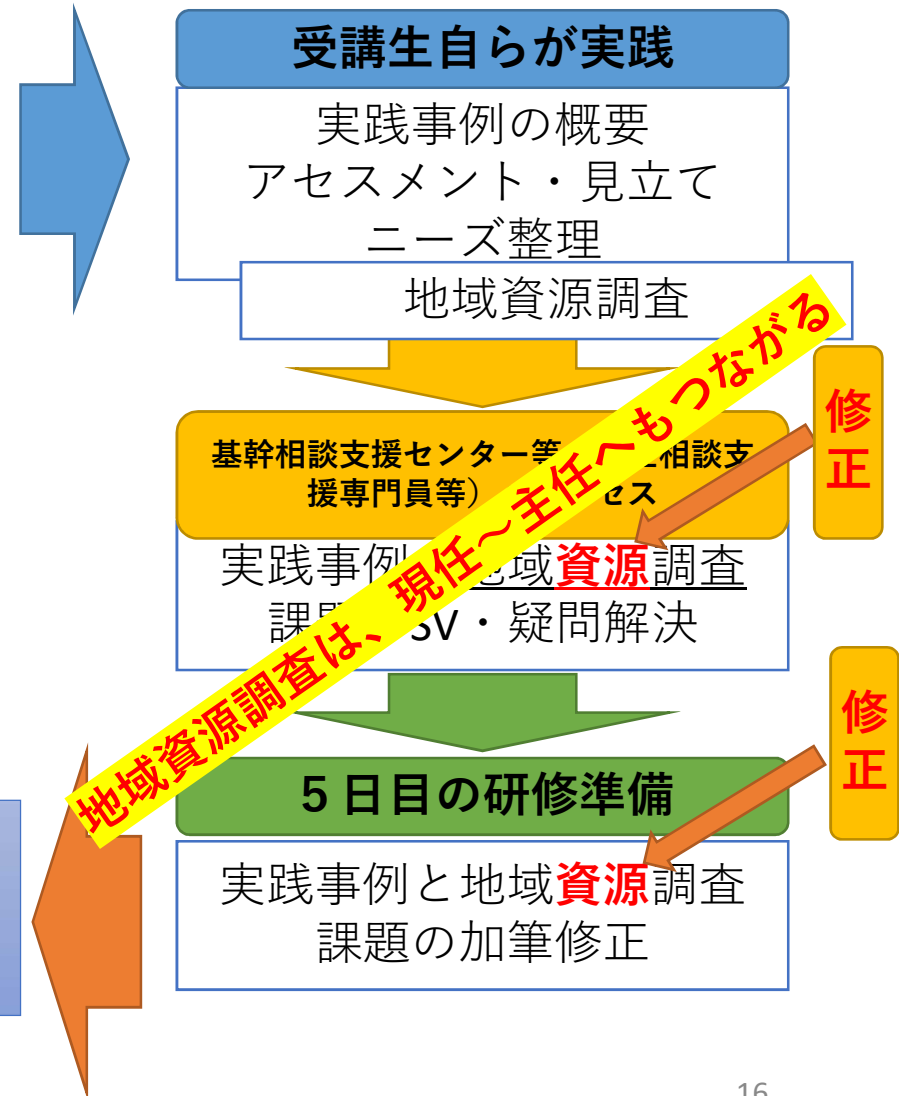
- 利用者及びその家族との信頼関係の構築の重要性について

【演習】

- 契約に関する制度上の位置付けや留意事項
- 受付及び初期面接の場面における相談支援の視点と信頼関係を築くための技術（受容、共感、傾聴）について模擬面接などを通じて修得
- その際、真意の確認において特別な配慮を要する障害者（知的障害児者や自閉スペクトラム症者等）とのコミュニケーションに留意した技術を修得
- 主訴を始めとする本人に関する心身や環境等についての情報収集とそれをもとにしたアセスメントにより、**ニーズを導き出すまでの思考過程に関する演習**
- 演習によりアセスメントに必要な情報収集の項目理解と方法・技術を修得（例：ジェノグラム、エコマップの活用）
- **利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視してアセスメント**を行うことの重要性を理解（ストレングスモデル）。
- 生物・心理・社会モデルやICF等を活用し、**収集した情報を的確に分析し生活全体を捉える視点と、生活ニーズを導き出す方法・技術**を修得

重要

5日目研修へ
（グループ・スーパービジョンの実施）



実習（実践事例） 1回目

- 障害福祉サービス等を利用する障害児者への居宅訪問を行い、面接による情報収集・アセスメント、プランニングを行う。
- 地域（市町村・障害保健福祉圏域等）における地域資源（公的機関、障害福祉サービス・障害児支援サービス提供事業所、（自立支援）協議会）などに関する情報を収集し、所定の書式に記録する。

実習の受け方（参考例）

『導入では、緊張なくモデル事例演習を振り返り、採点するような内容ではないことを伝え、安心して一緒の時間を共有することを先ず伝え、受講生との関係性の構築を図る』

【こんな風に宿題の説明をしてもらえますか？受講生から説明してもらってから始めましょう】

① 出来ていることの承認。

『ここは、いいですね。』をしっかりと伝える。（ストレングスの着目視点）

② ねぎらいの言葉。

③ 否定的な発言はしない。

『具体的にどんなこと？』と聞く。

④ 一緒に考える姿勢を持つ。

『一緒にニーズ整理票を見てみましょうか。』

⑤ 何を大切に考えたかを実習の受け入れの導入で聞く。

『この視点に気付けたのはすごいね』（なぜこう考えた？の質問は有効）

⑥ 分からないことや制度や事業内容、様式の記入方法、計画の目的については、理解して帰れるようにフォローする。

⑦ 終始楽しい雰囲気作り。（コミュニケーション・スキルを発揮）

☆アドバイザーではなく、受講者が気付くためのコミュニケーションをとる。

インターバル後に、修正して6日目の受講するイメージで完成は求めない。¹⁸

チェックレベル

- ① 受給者証が発行できるレベルにフォローする
- ② ストレングスやフォーマル支援以外にも、視野を広げて共に共有

5日目（実習事例による演習）

目標【実践例の共有と相互評価 1】

【獲得目標】

- 自ら実施したアセスメント及びプランニング等について、その根拠を踏まえて分かりやすく説明できる技術を修得する。
- 他者からの多角的な意見により視点が広がり、アセスメントが深まることを理解する。

5日目（実習事例による演習）

演習内容

【講義・演習】

- 相談支援の基礎技術に関する実習1により各自が作成した基本情報、アセスメント及びプランニングの内容について、グループ毎に共有及び意見交換を実施する。
- エンパワメントの視点を盛り込んだプラン作りになっているか、利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視したアセスメントを実施できているか、プラン内容の根拠として収集された情報からのアセスメント結果が適切であるかどうか等に留意し、受講者による相互評価を行う。（注）

実地教育と
の関係性

実習（実践事例）

2回目

実習 4日目で学んだ知識と5日目のGSVで気づいた視点を基に、サービス等利用計画の作成

【講義】

- ・ 利用者及び家族の生活に対する意向及び総合的な援助の方針を記載するに当たっての留意点
- ・ アセスメントから導いたニーズを解決するための視点と達成するための目標の関係
- ・ 計画の策定の視点と手順は、本人のエンパワメントを意識しつつ、①本人の力（ストレングス）の発揮と活用、②一般社会・生活資源の活用、③諸制度（医療・年金・就労・教育・生活保護等）の活用、④障害福祉サービスの活用、⑤満たされないニーズの確認とそれを満たす社会資源開発・地域づくり等、⑥制度・政策改革等、を基本とする意味を理解

【演習】

- ・ インフォーマルサービスも含めた社会資源の種類及び内容を理解するとともに、インフォーマルサービスの活用も含めた支援内容の作成一連の支援計画作成の手法・技術を修得
- ・ サービス担当者会議を開催の事前の準備や開催当日の準備などを理解し、会議の進行の手法等を習得
- ・ 模擬サービス担当者会議を行い会議進行の手法・技術を修得
- ・ サービス担当者会議は、利用者及び家族並びにサービス提供事業者も含め、利用者を支援していくための方向性を定める場であることから、相談支援専門員によるアセスメントの結果を共有することの重要性を理解する。サービス等利用計画と個別支援計画等との内容の整合性を確認することの重要性を理解する。

重要

6日目研修へ
（グループ・スーパービジョンの実施）

受講生自らが実践

サービス等利用計画案
の作成

基幹相談支援センター等（主任相談支援専門員等）へアクセス

実践事例
のサービス等利用計画案
の課題のSV

6日目の研修準備

実践事例
のサービス等利用計画案
の加筆修正

実習（実践事例） 2回目

- 実践研究 1（実践例の共有と相互評価 1）における相互評価を踏まえ、必要に応じて追加の情報収集及び再アセスメントを実施し、プランニング内容の修正を行う。

6日目（実習事例による演習）

目標【実践例の共有と相互評価2】

【獲得目標】

- 自ら再実施したアセスメント及びプランニング等について、その根拠を踏まえて分かりやすく説明できる技術を修得する。
- 他者からの多角的な意見により視点が広がり、アセスメントが深まることを理解する。

6日目（実習事例による演習）

演習内容

【講義・演習】

実地教育と
の関係性

- 相談支援の基礎技術に関する実習②にて、各自が実施した追加の情報収集、再アセスメント、**修正したプランニング内容（注）**について、グループ毎に実践例の共有、意見交換及び相互評価を実施する。

7日目（実習事例による演習）

目標【実践研究とサービス等利用計画作成】

【獲得目標】

- ・グループによる実践研究を通じて、サービス等利用計画作成についての理解を深め、技術を修得する。

7日目（実習事例による演習）

演習内容

【講義・演習】

- 実習により作成した実践例より1例選択し、グループによる再アセスメントを実施し、ニーズの明確化及び支援の検討を行う。選択実践例の地域に存在する社会資源を想定して具体的なサービス等利用計画（障害児支援計画）を作成する。

実地教育と
の関係性

7日間研修（初任者研修）のまとめ

研修修了時

【研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り】

【獲得目標】

- 研修全体の振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽意欲を高める。
- また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。

【内容】

- 研修全体の振り返りを行うに当たって、グループ又は全体で意見交換を行い、専門的助言を含めて、研修における学習の成果や今後の学習課題への意識付けのための講義・演習を行う。
- 現場で生じうる課題への対応や共同で研修する機会を作るため、研修受講者間においてネットワークの構築を図る。

実践での注意事項

- 対人援助に関わる援助者に求められる7つの行動規範のこと。
 1. 個別化（利用者の生活問題の個別性を理解する）
 2. 意図的な感情表出（利用者の自由な感情表出を促すよう意図的に関わる）
 3. 統制された情緒的関与（援助者自身の感情を自覚的にコントロールして利用者に反応する）
 4. 受容（利用者の「あるがまま」を受け入れる）
 5. 非審判的態度（援助者の価値観によって利用者を一方的に非難しない）
 6. 自己決定（利用者の自己決定を尊重する）
 7. 秘密保持（利用者に関する情報を不必要に漏らさない）という7つの原則からなる。
- ソーシャルワークアセスメントの際に、家族の状況を視覚化し、把握するために、主に介護、障害、医療、教育の分野で、援助者が、利用者を中心とした親族・家族関係（婚姻や血縁関係などの事実に基づく）を理解するために作成される図のこと。
- 主に介護、障害、医療、教育の分野で、援助者が、利用者とその家族が現在どのような状況に置かれているのかを把握するために、関係者・関係機関・社会資源（周辺からの情報や個人の見方により作成される）との関係性を図式化したもの。

受講生が地域に戻って計画相談支援の 実践が出来る力を養うためのまとめ

1. 7日間研修の流れ
2. 各研修日の獲得目標
3. 前回研修日と当日研修・後日研修の構造化
からみえる演習講師・実習を受けいれる側の
理解（受講生に分かりやすい説明スキルに向
けた取り組みなど）が重要



相談支援従事者現任研修カリキュラム構造

【獲得目標】

※初任者研

修で扱った価値・知識・技術

- ① 相談支援の基本を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる。
- ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる。
- ③ コミュニティワーク (地域とのつながりやインフォーマルの活用等) の理論と方法を理解し、実践することができる。
- ④ スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、継続的に研鑽を継続した実践をすることができる。



2日目 (演習：1日目)

個別相談支援（意思決定支援）

1. ミニ講義（研修事例によるミニ講義により、
意思決定支援、セルフチェックリストの記入講義）

2. 演習

- （1）事前課題の報告と6名全員の事例をグループで検討
- （2）実地教育の課題整理と演習講師からの助言
- （3）セルフチェックによる振り返り
- （4）実地教育への課題の理解

現任研修 実習 報告書①

演習時に受講生が記入

1. 実習で取り組む内容や基幹相談支援センター等の共有方法

①自己の振り返りや実践報告・検討を通して確認された支援者自身の気づき・グループメンバーからの助言

②実習期間で行う取り組む内容

グループメンバーからの助言に優先順位をつける。

②について基幹相談支援センター等との共有方法や必要とする助言（アポイントも含む）

演習講師から助言

取り組む内容が漠然としていると、実習期間に行う内容が不明瞭となるため、演習講師が助言と実習で対応可能な内容かを判断して伝える

本シートを実習に持参して、気づいた事・学んだことを、赤字で記入する。

実習（1回目）

- 演習1日目で個別支援（意思決定支援）に関する明確化した課題の解決に向けて、地元圏域へ戻り、基幹相談支援センター等（委託相談支援事業所含む）により、スーパービジョンの体験をする。

※ ここでは、個別支援に関する意思決定支援に特化したスーパービジョンの展開として整理する。

再確認

- 本人の意向を無視していないか
- 本人の言葉の意味を吟味しているか
- 支援者の都合が優先されていないか
- 既存の社会資源だけが支援の前提になっていないか
- 先に支援者の結論ありきで話が進んでいないか

実習後に受講生が記入

2. 実習期間に取り組んだ内容・効果・基幹相談支援センターとの連携

1－②の取り組みとその効果
基幹相談支援センター等との共有内容や助言等
実習期間の気づき（考察）

3日目

(演習：2日目)

多職種連携（チームアプローチ）

1. ミニ講義（演習初日の事例をもとに、チームアプローチ（多職種連携）の際の支援目的の共有とセルフチェックリストの記入の講義）

2. 演習

（1） 実地教育の報告後に、1の講義を受けて6名全員の事例をグループで検討する。

（2） セルフチェックによる振り返り

※ここでは、意思決定支援の実地教育を受けての事例として、多職種連携について検討整理し、第2日目の実地教育への課題を整理する。

（3） 4日目に使用する代表事例を選出する。

現任研修 実習 報告書②

演習時に受講生が記入

1. 地域の相談支援体制・（自立支援）協議会

地域の相談支援体制について（指定特定・委託・基幹が担う役割や機能がどのように整理されているか）

活動エリアに戻り、相談支援を展開する上で、知り得ておくべき情報
相談支援の展開の中で、相談できる機関や市町村の相談体制など

（自立支援）協議会について（協議会の役割や機能がどのように整理され、展開されているか）

地域課題を取り上げて協議している仕組み（相談・解決の糸口）

実習時に行くこと（相談体制や協議会について、どのようにして調べてくるか）

演習講師から助言

取り組む内容が漠然としていると、実習期間に行う内容が不明瞭となるため、演習講師からの助言と同意が必要

本シートを実習に持参して、気づいた事・学んだことを、赤字で記入する。

実習（2回目）

基幹相談支援センター等にアクセスし、自立支援協議会参加等の体験

（方法）

実地教育期間内に行われる、圏域自立支援協議会（専門部会など含む）への参加してみる。

地域自立支援協議会の事務局（基幹相談センター等）を訪問し、協議会の状況や圏域での課題など、活動状況のレクチャーを受ける。

一例）部会事務局担当者が、実地研修日を設定し、説明ブースを受講生が回って把握。最後に全体での質問と本会の様子を説明する。

2. 実習時の取り組み内容・効果・基幹相談支援センター等との連携

次週後に受講生が記入

相談支援体制について分かったこと（実情や課題など）

（自立支援）協議会について分かったこと（実情や課題など）

研修終了後、地域支援をどのように展開していくか（基幹相談支援センター等との連携も含む）

4日目

演習：3日目

コミュニティー・ソーシャルワーク（インフォーマル支援の活用）
グループスーパービジョン

1. ミニ講義（これまでの事例を通じて、地域のつながりや地域資源の活用、協議会機能、ヒアリングシートの再記入の講義）
2. 代表事例に対して、地域資源を活用する検討
3. 事例をもとにグループスーパービジョンを行い必要性の体験
4. 最後にヒアリングシートの再チェックにより地域支援の視点・主任相談支援専門員の役割を知る。

主任相談支援専門員養成研修の構造

告示別表

主任相談支援専門員研修		時間数
講義	障害福祉の動向及び主任相談支援専門員の役割と視点に関する講義	3.0h
	運営管理に関する講義	3.0h
講義及び演習	相談支援従事者の人材育成に関する講義及び演習	13.0h
	地域援助技術に関する講義及び演習	11.0h
合計		30.0h

【法令上はカリキュラム(科目)外であるが厚生労働科学研究(小澤班)において、効果的な人材育成に必要な要素として整理された内容】

- ① 開講にあたってのガイダンス(研修の目的、獲得目標、研修の構造や科目の概要)
- ② 課題実習(実践の振り返りを含む)
- ③ 研修の効果測定や継続的な学びへの動機付け等に資するもの
 - ・各科目の振り返りシート
 - ・研修の振り返り

標準カリキュラム

1日目	概論	主任相談支援専門員の役割と視点(2時間)
	法制度	障害福祉施策等の動向(1時間)
	運営管理	相談支援事業所における運営管理(3時間)
2日目	人材育成	人材育成の意義と必要性(1時間)
		人材育成の地域での展開(3時間)
		研修・グループワークの運営方法(2.5時間)
3日目		相談支援専門員に対する現場教育の方法と展開(6.5時間)
4日目	地域援助	基幹相談支援センターにおける地域連携と地域共生社会の実現(2時間)
		多職種協働(チームアプローチ)の考え方と展開方法(2.5時間)
		地域援助技術の考え方と展開技法(1.5時間)
5日目		地域援助の具体的展開(5時間)

研修構造 法定研修⇒実地教育へ

○初任者研修:

- ・地域を基盤としたソーシャルワーカーとしての価値の獲得
- ・基本相談支援を基盤とした計画相談支援を実施できる知識と技術の獲得

○現任研修:

- ・地域を基盤としたソーシャルワーカーとしての価値の再確認→相談支援
- ・個を地域で支える援助を実施できる知識と技術の獲得→チームアプローチ
- ・個を支える地域をつくる知識と技術の獲得→コミュニティワーク

○主任研修:

- ・地域を基盤としたソーシャルワーカーとしての価値を説明できる
- ・チームアプローチを指導できる(人材育成)技術の獲得
- ・コミュニティワークを指導できる(人材育成)技術の獲得

○主任相談支援専門員創設の経緯

○報酬加算と地域から求められる役割や責務

○主任相談支援専門員に求められる知識や技術(人材育成、地域づくり、権利擁護など、SV、協議会運営、メンター)

○運営管理